

令和6年度 府中市総合教育会議 会議録

1 開会の日時

令和6年12月17日（火）15時 開会

2 場所

教育センター1階 会議室

3 出席委員

小野市長、荻野教育長、高橋委員、和知委員、藤井委員、森山委員

4 委員以外の出席者

平野副市長、大川教育部長、宇野経営戦略担当部長、宮田学校教育課長、大森教育政策課長、道田文化財室長

5 協議事項

- (1) これまでの事業の進捗と課題等について
- (2) 意見交換

6 傍聴者

0名（報道機関0社）

16時30分 終了

【経営戦略担当部長】 それでは本日は、お集りいただきましてありがとうございます。

会議に先立ちまして会議の公開についてお諮りをさせていただきたいと思っております。法律の規定によりまして総合教育会議、原則公開ということになっておりますので本会議を公開するという事としてよろしいでしょうか。

また報道機関の方が後から来られるかもしれません。撮影の方も合わせて行かせていただくということでよろしいでしょうか。なお本会議は議事録を作成します関係上録音させていただいておりますのでご了承願います。

それでは、会議は公開とさせていただき、報道機関の撮影についてもさせていただくということでどうぞお願いいたします。

では、ただいまから令和6年第1回府中市総合教育会議を開催いたします。

開催にあたり、市長がご挨拶申し上げます。

【市長】 はい。皆さん、こんにちは。

教育委員の皆様におかれましては、本日はお忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。

また日頃は府中市教育行政に何かとご尽力を賜りまして重ねて感謝を申し上げます。次第でございます。

昨年、豊かな人生とよりよい社会を創造するため、自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育むという主題のもと、府中市教育大綱を策定させていただいたところであります。持続可能な社会の作り手の育成において、大きな課題はやはり少子化の進行であろうと思っております。

少子化は単なる人口減少や地域力の沈滞といった問題にとどまらず、学校教育においてもクラスメートをはじめとする他者との交流機会の減少といった社会経験の不足でありますとか、教育リソースが十分に投入できなくなるといった課題を生み、人材を育成するという教育の根本に関わってまいります。

さらにもう1点、新聞報道等でご存じの通り、財政健全化に伴う効率的な予算執行であります。

将来を担う人材の育成は重要なテーマではありますが、限られた予算の中で効果的な配分を行っていく必要があります。教育分野においても優先すべき事業分野はなにか、また持続可能性を高めるための効率化とは何かといったことを考える必要があるかと思っております。

本日は時間が限られる中ではありますが、市の取り組み、また、その方向性につきまして、皆様のご意見をお聞かせいただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

【経営戦略担当部長】 それではこれより議事進行は小野市長より行います。

それでは市長よろしくをお願いいたします。

【市長】 はい。改めましてよろしくをお願いいたします。

それでは本日の会議の内容についてであります。次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。

まず、府中市教育行政について学校教育を中心にご議論をいただき、最後に本市の教育全般につきましてジャンルにこだわらず、ざっくばらんな意見交換ができればと考えております。

論点は大きく2点ございます。

先ほど冒頭の挨拶にも触れさせていただきましたように、1つは少子化の流れであります。子どもたちの全体数が減少し、学校教育の目指す姿はどういったものなのかといったこと。

またもう1点は、財政健全化に伴う事業見直しであります。

先ほどもお話ししましたように、限られた予算の中で優先すべき事業・分野はなにか、また持続可能性を高めるための効率化とは何か、こういった視点からのご意見もちょうだいできればと思います。

まずは府中市教育の現状と課題について、事務局の方から説明をいただき、その後皆様からのご意見を伺って参りたいと思います。

ではまず本市の総括的な状況につきまして、大川教育部長からお話していただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【教育部長】 はい。それではよろしくお願いいたします。

まず説明資料でございますが、教育大綱、それから資料1、府中市の教育を書いたパンフレットをご用意ください。

まずは教育大綱をご覧ください。府中市教育大綱の基本理念は、豊かな人生とよりよい社会を創造するために、自ら考え行動できる主体性と創造性を備えた人を育むとしております。将来を見据えた目指す姿として、豊かな学びを生涯続けることによって、すべての市民一人一人が成長し、思いやり溢れる豊かな心や健やかな体を育むことで、自らの豊かな人生の創造に繋がると考えております。

そうした人づくりは人を育てるということに留まらず、成長した人が地域を担い、支え世代を超えて地域や社会の形成に参画し、地域全体が人を育むという好循環を生み出し幸せを実感できるまちづくりに繋がると考えております。まさに教育は人づくり、人づくりやまちづくりである。我々はこういった気概を持って府中市が目指すまちづくりの将来像につなげていくような教育の実現を目指しております。

それでは、資料1と府中市教育のパンフレットをあわせてご覧ください。まずはパンフレットの方の中を開いていただいて、パンフレット下段のところをご覧ください。

府中市では、小中一貫教育とコミュニティスクールの一体的推進を基盤とした義務教育9年間の連続性のある教育の推進をしております。義務教育の子どもを育てていくとともに、CSの仕組みを活用し社会に開かれた教育課程を実現し、子どもたちの主体性を大切にしながら豊かな学びを創造する。これらの取り組みを通して、子どもだけでなく、大人も地域も共に育つまちづくりを目指しています。

具体的な取り組みについてでございます。

まず、キャリア体験学習。府中市で働く大人と直接出会い経営理念や仕事への思いなどに触れる学びを展開しています。体験で終わるのではなく、生徒自らが課題を発見し、さらに魅力的な事業所になるための工夫点などもまとめ提案等もしております。

続きまして、放課後ラーニングサポート事業についてでございます。

令和4年度から、子どものもっと学びたいという意欲を叶える場として、放課後ラーニングサポート、通称ランサポとしてスタートいたしました。学校の先生だけでなく、地域の住民や保護者などがサポーターとなり、現在80名から90名のサポーターの方々に学習の支援をしてい

ただいております。

続きまして、ことば探求科でございます。

教育課程の特例を活用して、令和3年度に創設しました。小中一貫教育独自教科でございます。府中市では、このことば探求科を言語能力育成の役割を担った重要な教科として位置付けております。

続きまして、ALTの全校配置です。令和5年度より、全校にALTを常時配置しております。ALTと気軽に触れ合い、生きた英語に慣れ親しむことができるように、地域、また保護者、そして子どもからもALTの配置について大変好評を得ているところでございます。

それから市内一斉学力調査です。全学年の児童生徒を対象とした学力調査及び、心の状況を把握するアイチェック児童生徒相互質問紙を、年2回実施をしております。この分析結果をもとに市内全教職員を対象とした研修会を2回開催しております。

その他でございますが、令和6年度より、子どもたちの挑戦してみたいを応援するために、子どもの学び応援基金の方を設置して取組を進めているところです。その他ICT教育としましては、令和3年度から、県内で先駆けて府中市は、1人1台端末Chromebookの対応を開始いたしました。これは導入当初はですね、まずは触ってみよう、使ってみようというところから始めまして徐々に効果的に使ってみようということで、情報活動能力の育成に取り組んでおります。当初のねらいでもございました、鉛筆やノートなどまず文房具として、自宅校外使用場所を選ばず活用して欲しいという願いで始めましたが、すべての学校で活用が進んでいる状況でございます。

それでは資料1の方に移ってください。

これまでの取り組みをさらに発展させるための体制整備ということで3になります。これまで府中市が積み上げてきた教育をさらに支えていくための人材育成、それから学校体制の充実が必要となってまいります。

そちらに上げております人材確保、それから職員の人材育成、教育施策を通して将来の府中市教育を担う人材の育成を目指しています。

また社会教育との連携による地域学校協働活動の推進。それらに関わる財源の確保。それから、児童生徒への支援体制といたしまして、セーフティネットの充実と支援体制の充実。支援の必要な児童生徒の増加による体制の充実がますますこれから必要となっております。特別支援学級に在籍する児童生徒数も年々増加をしております。今年度で言えば、小学校で139名。中学校で48名。通級指導教室を利用している児童生徒は、小学校で69名。中学校で17名となっております。

保護者理解も進み、特別支援教育の必要性や重要性も認知されてきている中ではございますが、人数が増えるということですね、支援やセーフティネットの充実がますます必要になってこようと思います。現在も市費でセーフティネットの充実と支援のために配置していただいているスタッフとして、そちらに挙げていますようにスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールガード支援員、府中市教育支援センター、通称教育支援センタースマイルといいます。またスペシャルサポートルームの整備、特別支援教育支援員は16名配置していただき、医療的ケア専門スタッフも1名の配置をいただいているところです。

4、現在の課題といたしましては、児童生徒数の減少に伴う学校体制のあり方について考え

ていかなければいけないという風に考えています。児童生徒数の推移でございますがグラフの方を見ていただきますと、例えば府南学園、令和6年度、1中と4つの小学校合わせて現在1022名の児童生徒が在籍しているんですが、令和12年には860名。合計162名が減となります。また上下学園は現在184名の児童生徒が在籍しておりますが、令和12年には112名。72名の減となります。義務教育学校の府中明郷学園は現在242名ですが、令和12年には137名、105名の減およそ半数になるということです。最後、府中学園が令和6年、775名ですが令和12年には510名、265名の減の推移となっております。

また教職員の働き方改革、それから教職員の精神疾患の病気休職者についてでございますが、こちらは文部科学省の資料によりますと、令和5年12月22日に公表してあります令和5年度のデータになるんですが、全国で精神疾患による病気休職者の数は過去最多で6539名となっております。中でも休職をする割合が一番最も高いのは、経験年数が1年以上、2年未満ということで、全体の22.5%がこちらに当たります。府中市におきましても、国と同じ傾向がございまして、若い世代それから経験の浅い教職員が、病気休暇で休職をするということで同じ傾向が出ております。

それから、不登校児童生徒の増加に対する支援体制についてでございます。こちらは県の方料の方をご覧ください。まず1ページ。不登校児童生徒数は、広島県全体で1万764名。小中高合わせになるんですが、小学校、中学校で言いますと7ページです。こちら、年々増加している状況です。ここ数年、全国的にも、県としても府中市としても同じような課題としてとらえております。

あと、特徴的なことといたしましては、不登校児童生徒の低年齢化です。これまでどっちかっていうと中学生の不登校が多かったんですけど、どんどん学年も下がって、小学校低学年の子が不登校になるということが特徴となっております。また、背景といたしまして、自己理解の不足や理想の自分と現実の自分とギャップに苦しんだ結果、不登校となるケースが多いと思います。

今後の展望といたしましては、まず大きいところで見ますと、今ご紹介させていただいているこれまで多くの方々が努力、それから力をかけて積み上げてきた、また整えてきた府中市教育の進化と定着を図って参りたいという風に考えております。またそのためには府中市教育の魅力をどんどん発信していく必要があるかという風に考えています。

それから学校教育と社会教育の連携のところ、少し紹介をさせていただきますと、まず教政策課として考えておりますのが生涯学習大学構想。新居浜市をモデルに府中の中央公民館を利用して、令和7年度の夏に生涯大学として開校したいと考えております。イメージといたしましては、担い手の育成に繋がる学びのメニューづくりでありますとか、学校教育を経て、社会教育の価値を語り、生涯学び続ける人を排出する府中市教育のよさを体現する自立した若者たちが働きかけ始めるコミュニティを創造したいという風に考えています。

文化財室といたしましては、府中市の地域財産としての文化財を守り、未来へつなぐ人材設計と魅力ある地域社会を創造するための文化財保護行政に展開してまいります。主に2点、1点は資料館事業や活動を中心に学校教育、社会教育等の発展的展開を促進します。

2点目は、指定文化財を将来にわたって保存継承するために、所有者や地域等のステークホルダーと連携し、クラウドファンディング等を活用した財源確保や有効な情報発信を展開し、

さらなる関係人口の増加を目指してまいりたいと思います。事務局からの説明は以上でございます。

【市長】 はい。ありがとうございました。

それでは、事務局の方から人材育成、学校体制等説明いただきましたが、ここからは皆さんと意見交換に参りたいと思いますので、今ご説明いただいたことも含めまして、何かご質問ご意見等ございましたらご発言いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。繰り返しになりますけど人材育成と学校体制の充実と説明いただきました。中長期的な人材育成や人を育てるための学校体制の充実という点でなにかございましたらご意見をいただけたらと思うのですが。藤井さんからいかがでしょうか。

【藤井委員】 今大川部長の説明の中にも児童生徒数がかなりの勢いで減少していくというような説明もあり、最初に市長さんのお話の中にそういう中で教育の混乱等もない中、経験とか確かに交流とかそういったものが、非常に少なくなるというお話はあったんですけども、教育は、なかなか何かが出来たとか、何かこういうものが完成したとかっていう風な形には見えにくいものだと思うんですけども、その教育は人づくりであり、その人づくりが最終的には巡り巡って、府中のまちづくりにやっぱり返っていくというのが、本当は望ましいというか、そういうものを目指してやっぱり教育はやっていかないといけないなという風に思っています。

結果は見えにくい、そして長い年数がかかるものだけでも、とても大事なものだと思います。でもそうやって学校も児童生徒数が減ってきたり、休職者数も国の資料ではありましたけれども、やっぱり1年2年の若い先生達が、病気になる確率が十分高いというのを考えると、人を作っていくのはやっぱり人なので、子ども達を育てていくのはやっぱり人が大事だと思うので、若い先生たちが元気でそして毎日子どもたちに向き合えるような、そういう学校づくりがとても大事だと思うんです。それには、その人自身が頑張るというだけではなく、学校全体のみんなで人を育てていく、学校だけじゃなく、コミュニティスクールであるとか、地域全体も含めて先生方を育てていくっていうような学校づくりというのが大事だと思うし、コミュニティスクールはもう10年ぐらいやってきた府中市ならば可能なんじゃないかと思うし、そういう方向でコミュニティスクールを作っているということも府中市の魅力に繋がるのかなという風に私は思っているので、財源は大変厳しいところではあると思うんですけど、やっぱり人を作っていくっていう協力は、予算は厳しいかもわからないんですけども大事にしていかななくちゃいけないところかなと思います。

【市長】 ありがとうございます。

今、なぜ休職者の数値が国の数字を示していただいたわけですけど、とはいえ府中市の方もですねなかなかそういった方を具体的な数を教えて欲しいということじゃないんですけど、何人か当然いらっしゃると思いますし、或いはその途中とかやっぱり悩んでおられる先生方もいらっしゃるんだと思うんですが、そういった方に対するそのフォローは今、教育委員会として実情をどう掴んで、それをどう対応しておられるかありましたらちょっとご紹介をお願いしたいのですが。

【教育部長】 本当に初任者はやっぱりしんどい思いをしたり、途中やっぱり休職に入ってしまうようなことがあります。

今年度から始めた取組といたしましては、伴走支援として市教委のスタッフがそれぞれの初

任者の担当、主幹を含めたんですけど、1人に1人について、授業づくりはもちろんなんですけども、生活のこととかプライベートなこととか、学校ではちょっと相談しにくいようなことも聞けるような、定期的に学校訪問して良き相談相手となれるような伴走支援という取組を進めているところです。

【市長】 ありがとうございます。

去年も話したかと思うんですけど、さっきCSの話をされて、学校は地域の人にいいところはあるんですけど、今悩んでいることとか課題っていうのはあんまり、どちらかと言ってこなかったのを、ある学校で何か学校が抱える課題を、CSの人にも一緒に共有していただいて、特にその学校は、今ちょっと若い先生が悩んでおられた状況を、何か地域の人にも話をしたら、地域の人も一緒になって取り組んでいただいたり、励ましていただいたりしたようで、何かその先生もそれですごい立ち直られたという報告も聞きますので先生の案件もさることながら、藤井さんが言われたように、やっぱりCSをせっかく府中でできて10年ぐらい経っているんで、一緒になって取り組めることがあれば取り組んでいけるかなと感じたところです。ありがとうございます。

はい。森山委員。

【森山委員】 はい。先ほど部長の方からご説明あったようにやっぱり休職される方というのは全国的にも、やっぱり教員の方でもおられるということがある中で府中市としても、ウェルビーイングの向上というのはテーマにしていらっしゃる中で、やっぱり先生たちっていうのも、昔は先生たちも昔ながらのやり方というか、先生はどんなに夜遅くなくても仕事をしてとか、保護者が仕事で帰ってこないから夜10時に家庭訪問してみたいな話とかよく聞いたんですけども、そういうふうな時代でもなくなってきたのかなというふうに思っていて、やっぱり子どもの学力支援はもちろん大事なんですけれども、そういったいじめとか不登校などのある子どものケアとか、あとその先生も保護者対応で、時間とか精神的負担がやっぱり増えてしまうのでそれを軽減するためにも、ソーシャルワーカーの方を配置してうまくこう分担することで、そういう負担もちょっと減らしていくっていうようなこともできたらいいのになと思っています。

私も子どもが今小学校3年生と2年生にいますので、やっぱ先生方がいろいろ大変そうな姿を見ているので、何かそういった部分がクリアできないかなというふうなことも感じています。

【市長】 実際どうなんですか。現場の先生としては今、やっぱりどうしても自分でいちから頑張りたいという思いを多分皆さん持っておられると思うんですけど、困ったときとか助けて欲しい時ってのは、先生の方からそういった先生の方から、例えば管理職の方だったり先輩だったりという人に助けを求めるような機会というか、そういう環境っていうのはあると思えばいいですかね。その辺りはもちろん手を差し伸べられるんでしょうけど。実際現場の先生からそういう声が上がってくるものですか。

【教育部長】 困ったときにご相談できる。

まず先生で、管理職っていうとちょっとハードルも高くなるかなと思うんですけど、やっぱり周りを見てそこしんどそうだなっていうのは、声かけていただいたり、場合によってはスクールカウンセラーに子どもじゃなくて先生自身も相談されるようなものもありますので、完璧かどうかはあれなんですけどそういった相談ができる雰囲気、土壌はあると思います。

【市長】これは学校先生しかり、市の職員もやはり、悩みを抱えている子も多いんですけど、いつも常々言っているのはやっぱり相談できる職場の雰囲気づくりをね、困った時は困ったとか、しんどい時はしんどいと言えるような職場環境づくり、いったらやっぱり市の職員も含めて取り組んでいって、遠慮なく先生も言っていただくとか、保護者でも気がついたことがあったら言っていただければと思っています。

【森山委員】はい。ありがとうございます。

【市長】はい。和知さん。

【和知委員】そうですね今もうCSの人の力をもって意見が出ているんですけど、10年先を見たときに、CSの方たちの高齢化っていうのもやっぱり外せないと思うんです。今もかなりCSのメンバーの平均年齢って高いと思うんですよ。そうなったときに、やっぱり後継者といえますか、CSの中でも、次につなげていく持続できるような形っていうのが、もちろん必要ですしその中で子どもたちが成長していく形っていうのも、今からちょっと先を見て将来、見ていって考えないといけないと思うんです。

結局のところ、CSのメンバーも、教育現場も保護者も何を望んでいるかって言っていたら、やっぱり地元に残ってくれる、府中市を好きな子どもたちを育てたいっていうのが、その基本にあると思うんで、それはその一方通行じゃなく、全体的にその市のやはりやるべきこととか、教育現場でしないといけないことを、CSがどういう形で取り組んでいけばいいかっていうことをやっぱり明確にこれから考えていくっていうのが、一番いい形だと私は思っているんです。

そのために行政にも、やっぱりそのお金がないっていうのを前面に出されると、なかなか難しいところがあるので、使うところっていうか、何にその必要なお金を使うか、大事な財源をどういうふうに、将来のために府中市の未来のために、どういうことにあれするかっていうことを、やっぱり明確に出していただけたら嬉しいと思います。

【市長】確かにCSの方ね、メンバーの高齢化っていうのはあるわけです。

一方で、やっぱり後継者の育成っていうのも大事なことだと思いますので、またそのあたり今、何か考えておるところがあれば

【教育長】では、私の方で。

コミュニティスクールは変革の時期にあるなと思っていまして、今年度も、米子市で全国のコミュニティスクールの研究大会が開かれたわけですけど、今全国的に多いのは、地域の活動とコミュニティスクール両方一体としてやっていこう、そういうのを作っていきましょうという流れがある中で、府中市の場合は、コミュニティスクール自体が地域活動と一体化している。ある意味目指そうとする姿が基本形にあるということです。

それに加えて、今府中市として取り組んでいるものとしては、子どもたちがこのCSに関わっていくそういうステージ来ています。実際その子どもたちが変わっていくということを全国のコミュニティスクールの実践事例の中で、府中市の名前を上げられて、こういうところにもチャレンジしている府中市ということを全国に紹介していただいて、次の目指すところはここでしょうということまで言っていた部分もあります。なので、後継者っていうことをダイレクトにするわけじゃないですけども、10年後20年後には確実に社会に出て府中市に生きているという子どもたちも実際いるわけですから、その方子どもたちがやっぱり、地

域・学校と一体となって生きていく活動していくっていうその中心にいるわけなので、その参画っていうところもちろん目指していきたいなと思います。

【市長】 はい。高橋委員さん。

【高橋委員】 はい。

少子化問題はどこも避けられない問題で、今後ますます加速していくんだらうと思うんですけども、そうした中で現在市内の小中学校でも、学校によって学級編成が行われておりますし、さらに近い将来学校ごとの編成が行われるような状況になろうかと思えます。でもそうした中でですね、児童生徒さんにとっては、やはり1人の可能性を伸ばす人間でありますので、そういった方たちの可能性を伸ばせるような教育、いわゆる少なくなったらできると言ったら語弊があるかもわかりませんが、いわゆる9年間の積み重ね育成がもう少し明確に見えるような教育に進んでいけばいいのかなという風に思っております。

ただ一方でですね、いろんな不安定要素を含めた社会情勢の中で、子どもさんたちも非常にいろんな感情とそれから価値感の中で生きる上です、やはり学校の中でセーフティネットやっぱりしっかり構築しておかないとなかなか難しい面も出てくるのではないかなというふうに思います。

だからそういったところですね、一人一人の人材教育は、長期的いわゆる1年生から9年生までの教育課程、一人一人の育成過程が構築できて1年1年の成長が見えるような、教育に発展していったらどうかなという風に思っていますし、またそうした中で、学校の方もですね、編成が行われてくるとなかなか学校自体の管理者或いは現場の先生方にとっても、いろいろ大変な面も出てくるのではないかなと思いますし、子どもたちもまた、環境が変わるわけなのでそういったところをですね、セーフティネットを含めたカウンセラーの充実というのが必要になってくるんじゃないかなというふうに思っているところでございます。以上です。

【市長】 そのあたり教育委員会から、セーフティネット、まあいろいろというかも先ほどご紹介いただいた、SSRにしても、スクールカウンセラーとしてもその辺りになるのかなと思うんですが、何か他に付け加えることがあれば。

【教育部長】 そうですね。本当にここまで、いろいろセーフティネットを張り巡らせるため、積み上げていく取組がですね継続して発展していくように、教育委員会としても学校を支援していきたいと思えますし、学校の方もですね、自立的にそういった、乗り越えられるチーム力とかそういうのを高めていただく指導をしていかなきゃいけないなと思います。

【市長】 ありがとうございます。

また次の議題で、ご意見をお聞かせいただければと思いますので、続いて先ほどの説明の中にもありましたように、全国的にも子どもの不登校や教職員の休職が問題となっております。

先ほど少し、ご意見をいただいたところでありますが、本市でも同様の傾向が見られるようですが改めてですね、子どもと教職員の心理的支援について何かご意見を賜ればと思うんですが、先ほどちょっと森山委員の方からも少し触れていただいたんですが、何か、例えば、保護者の立場として、何か先ほど説明にちょっと加えるようなこと或いはさっき学校先生が大変そうだってご紹介いただいたんですけど、子どもたちの様子なんかその子たちの心理的支援といえますか、その辺りでもっとこういったサポートができればっていうのがあったら聞かせてもらえればと思うんですけど。

【森山委員】やはり親の立場から考えると、自分が小学生だったときとやっぱり比べてしまうんですけども、もちろん子どもの数が減っているっていうのは、もちろんなんですけど、通っている府中学園で言うと、子どもの数は減っているんですけど1クラスの人気って増えているんですよ。どうしても、そのあたりの事情があってクラス編成が1・2年生までは3クラスだったけど次3年生に上がると2クラスになったので、またそこで増えてしまう。そうすると、教職員1人が見なきゃいけない子どもの数っていうのがやっぱり増えてしまうんです。

そうなったときに、やっぱりすべてに目が行き届くかどうかという部分ももちろん問題もあるかと思いますが、やっぱり子どもたちも、その中で、ちょっと落ち着かない雰囲気なったりとかそういうふうな部分も、割と状況としては増えているのかなあという風に思います。

そういう状況だからこそ、本当は先生が頑張らなきゃいけないんですけどもそんな状況だから先生たちも、その負担がどうしても増えてしまって先生たち、先生1人ではどうにもならない部分っていうのが割と出てきているんじゃないのかなっていうのを感じています。

ただ、参観日毎回参加するんですけども、やっぱり1学期2学期っていうふうにならなくていくにつれて、やっぱり先生たちの努力と、子どもたちの理解ですごくこううまく落ち着いてきてるなっていうふうなのは、感じられるんで、ただその先生たちの身体的もそうだし心理的な負担も相当あるんだらうなっていうのは、保護者としてちょっと感じる部分があるので、先ほどから出ているような、ソーシャルワーカーとかまたそういったセーフティネットというものをうまく活用して、先生たちが自信を持って長く働けるような環境ができるといいなという風に親としては思います。

【市長】はい。ありがとうございます。

その辺り今、1クラス35人は1年生だけが？

【教育部長】全部

【市長】もう全部35人で段階的に探して上がって行って今、現状は6年までがもう35人学級になっていて、今言われたんで言うと、だから35人のクラスが、単純に言えば71人おれば3クラスだったのが70人と35人が2クラスになるということですよ。

そういうときって、例えば先生をもう1人つけたり、もちろんべったりはいかんでしょうけど、授業によってサポーターとしてやられているところもあるんでしょうか。

【教育部長】県費負担教職員はもう定数が決まっているので、学級数に応じての先生しか配置されないんで、そこは市の、例えば支援員を支援員、配慮が必要な子が多い場合にはそこに支援員を配置するとか、事情によるんですけど、講師を配置して何時間かサポートに入るとか、そういう支援の方はさせていただいていますけど。

【市長】はい。

【教育部長】基本定数に対しての教員数なので、そういったところは1人の持ち分で確かに増えている状況はありますね。

【森山委員】あと、これは教育現場だけではないと思うんですけどもやっぱり産休育休っていうような部分で休まれる方もいらっしゃる中で、学校の場合産休育休で休んでらっしゃる先生がおられると補填がなくてそこを誰かがカバーしなきゃいけないという部分が大半あると思うんで、その辺りもすごくハードが現場だなというふうに思っています。

【市長】今、産休育休制度はどうなりましたっけ。

【教育部長】産休育休に代替がいれば、そこにはまることもあるんですけど、なかなか見つからなくてある一定期間配置できない、穴があいてしまうような状況も、前にいくつか。

【教育長】そういう方がいきなり担任になるっていうことも多いのかなと思いますがその方に、1からすべて任せますっていうだけじゃなく、今おっしゃったように人が見つかったらその配置ができるんですけども他の先生方もやっぱりフォローしながらやっていくというので、プラス業務が増えているんだろうと思います。力がある先生がたくさんいるんですけども、やっぱり経験がなくても、やっぱりそこで育てていくっていう視点が非常に大事なので、どういう学校であっても組織的にも人を育てていくということはこれまでも続けてきて、府中市でもそれぞれの学校は頑張っていてやってきているかなと感じています。

【市長】逆に言えば、多分育休は1年取られるんですけど。

【教育部長】長い人で3年ですね。

【市長】そういった中でね、やっぱり先生もいやいや早めに現場に復帰して、人に迷惑かけちゃいけないと思われてもいけないので、しっかり産休育休を取られる方がおられれば、そういった方はねしっかりそういう休暇を取っていただいて、あと、上の方は色々考えていただいて協力していただく場合も想定しないといけないかなと思いますね。

ちょっと子どもと教職員の心的支援ということに今お話が出ているんですが、藤井委員さんその辺りで現場の経験も踏まえてなにかありましたら。

【藤井委員】1年目・2年目の人の休みが多いということを見ると経験がなくても、小学校であればもう4月1日から担任をしなくちゃいけないというある意味厳しい職場だと思うんです。

それでも、これまでみんなやってきたといえそうなんですけど、やっぱり状況が随分変わってきているし、大学出たばかりで4月1日からもういきなり担当して保護者対応をもしなくちゃいけない、教室の中にいろんな個性の子どもたちがいるのに細やかに対応しなくちゃいけないとか随分な負担だとは思っています。本人がそのやっぱり自覚っていうのももちろんいると思いますけど、さっきちらっと教育長さん言われたように組織で、その人を大事にしていく、もう今人がいないので、採用試験の小学校でいうと採用試験の場合、かなり2倍はもうとくに切ったんですよ。他県ではもう募集人員満たないというところもあると聞きますし、辞退者もすごくいっぱい辞退者がすごくたくさんいる県もあると聞いて、広島県はそこまではまだっていないと思うんですけど、1. 何倍かの倍率で、要はなり手が無い。その採用されてきた人をやっぱ大事に育てないと途中で病気になられたり、休まれたりっていうことになる、辞職に繋がっていきやすいと思いますし、この学校の組織としてその人を1人にしないというか、フォローしていく仕組みを学校の中でやっていくっていう努力が学校にもいいと思います。

本人からSOSはなかなか出しにくいかなと思うので、周りがやっぱり気が付いてその人を1人にしないコミュニケーション大事にしていくというのもあるし、もう物理的に指導教諭の先生が入る時間、専科の先生がとってあげる時間、支援員の先生が入る時間っていうような、1人じゃない時間を増やしていくような努力とかを学校の中でできる限り、もうしておられるとは思いますが、そうやって組織として、仮にクラスがすごく厳しい状態になっても、何とかそれにみんなの支援を得て、何とかそれに向き合っていこうというふうなうまきは

できなくても向き合っていこうとするような学校づくりというか、そういうものが今やられているかなと思いますし、1人にしないでおこうと思うと特別支援教育支援員さんなんか、今16名配置を、以前より大分増えているかなあと思うんですけども、説明の中にも、特別支援学級に在籍している子や通級の子がすごく増えているという状況が出てきましたよね。ということは通常学級の中に、通級も行っていない支援学級に在籍もしていないけれども、特別な配慮を要する児童生徒がかなりの確率でいるということが想像できるので、16人が小学校、中学校、義務教育学校合わせて10校なんですけど、10校で16名が多いかという、決して多いとは私には思えなくて、むしろもう少し欲しいなど。ただ人材がいるかどうかという問題もあるんですけども、やっぱり人っていうのが、学校に本当に大事だと思うし、仮に支援者さんじゃなくても例えば、これは市長さんも言われたように、学校の問題点課題もコミュニティスクールの中で、この運営協議会の委員さんたちと、こんな問題を抱えているんだっていうことが言えて、見守りに行ってみましょうとか、家庭科の授業、1人で大変だったら入りましょうとか、そういう支援が得られるんじゃないかと。

コミュニティスクールの取り組みとして、とても目指す部分もあると思うんです。

例えば明郷学園の会社を作っておられるとか、国府が国府演JOY祭祭りの地域と一体となって子どもが結構メインになってやっているとかっていうのは、すごく先進的で目指す姿という風には思いますけれども、もっとこのベースの部分で学校が困っていることを一緒に解決していけるようなそういうコミュニティスクール、それが大事かなと思います。

そうして、子どもが元気で学校で目指す子ども像っていうのは、みんなで共有しているはずだから、そのおかげで、先生も1年元気に過ごせた、子どもも元気で頑張れた、目指す姿に少し近づいたっていうような実感が、運営協議会の委員さん方にもフィードバックされると、コミュニティスクールの活動がまた前に進んでいくんじゃないかなと、目に見えない部分ではあるんですけど、そういうところはずっとずっと大事にしていけないといけない。先を求めていく先進的な取り組みをする一方で、ベースになる部分はずっと大事に不易な部分は大事にしていけないといけないかなと思います。

【市長】 ありがとうございます。

今のちょっと僕の勘違いかもしれないのですが教育学部行かれる方も、多分半分ぐらい先生になられないんじゃないかという、何かデータの的ななんか出ていたような気がして、ちょっとその数字が半分が正しいかわからないけど、だから、教育学部行つとる学生も皆が皆、今先生の教員不足っていう話の中であるんじゃないかという風に聞いた気がするのが1つと、あともう本当に初任から担任を持つということになると、これは府中市だけの話じゃないと思うんですけど、例えば、教育実習のあり方とかね。素人ながら思うと、府中に教育実習に来ている子たちに、教職員のすばらしさっていうか実習のときっていうのはみんな意欲に満ちて多分くると思うんで、そういうときになんか府中で教育実習来てくれる子がいるのであれば、なんかアプローチできるかなと思うんですけど。何か、そのあたりは、なんか府中だけは特別な教育実習はできんのかなと思いつつ、これちょっと国とか県に言う話なのかなと思うんですけど。

【教育部長】 今、教員の志願者自体の数が減ってきているので、今、数値は持ち合わせていませんけど、特徴的だなあと思ったのが、この前栗生小学校に行ったときに、教育実習に来る先生

に生徒がなんか学校紹介ビデオレターみたいなのを作って栗生小学校こんなに素敵な学校なんですよ、先生早く来てね。みたいな手作りのを作ってそれを先生に送って見てもらってから来るんだって言われていたんで、何かそれは相当わくわくするだろうなと思うんですよ。すごく特徴的な取り組みだし、多分子どもが進んでやりたいって言ったっていうのも聞いたんで、そういった意欲を喚起されているのかなと思います。

【市長】 そういう取り組みは良いことだと思うし、来ていただける実習の先生も、そういう学校で働きたいと思っていただけるかもしれない、まあそれが叶うかどうかはわからないにしてもね、やっぱりおそらくね、先生なられようと思われた方は子どもさんがやっぱり好きな方が多いと思うんで、そういうアプローチとかしてもらったら嬉しいですよ。

【教育部長】 はい。

【高橋委員】 別の角度からちょっとお話しさせてもらおうと、今学校内で児童生徒も含めてなんですけど、ALTさんの存在がすごく大きいんです。

今ね、各学校に1人配置をしていただいていますけれども、非常に生きた英語が勉強できるというふうな利点もあるんですけど、児童生徒さんがその出身地に興味を持つんですね。だからいわゆるその大国でなくても、別の国から来ている、じゃあどういった国？とか言ってやっぱり、そういった側面的な勉強にも繋がっているというふうな話も聞きますし、やっぱり教員の人たちALTさんがいるだけでちょっと雰囲気が変わるんだそうです。ある意味、ムードメーカー的に立場でやっていただけるといような話も聞くので、ですからこれは今年度初めて各学校に1名配置していただいたんですけど、もうちょっと続けていただく必要があるのかなあと思ってみたり、ある保護者の方に聞くと、うちの子は大きくなったら海外特派員で派遣して、海外で活用したいと小学校の低学年から言っているとかいう話も聞くんで、そういったいろんな意味でですね可能性を引き出す上で、やっぱりそのALTさんの存在っていうのは、府中にとって大きいなというふうに思いますんで、もし可能性があるんであれば各学校に1名ちょっと継続して配置していただくと非常にいいのかなあという風に思いますね。

【市長】 はい。ありがとうございます。

各学校に配置して3年目でしたっけ。

【教育長】 2年目です。

【市長】 2年目ですよ。

各学校に配置して、少人数の学校とちょっと人数多い学校でちょっと接し方違うかなと思うんですけど。

何か、今まではね、例えば中学校単位ぐらいで1人ずつあったのが今、全校で1人もしくは2人を配置している中で、実際の学校の方からの声ということで、何か聞いているものがあれば紹介してもらえればと思うんですけど。

【教育部長】 子どもたちもすごく喜んでいて、これまでは巡回型で1人のALTが複数校回っていたら、たまにしか来ないし、英語の時間にしか触れ合うことがなかったんですけど、今は朝から最後までずっといるので、英語時間はもちろんですけど、休憩時間とかそういう時間学校生活全体を通して、うちの何々さんとALTと触れ合えることで子どもたちも日常的に会話を楽しんでいます。

授業中どうしてもこういう勇気出して話し掛けたかったなっていうときに、廊下ですれ違い

ざまに挨拶したり、また日本語が堪能なALTもあえて子どもと話すときは英語を使うようにしてコミュニケーションを楽しんでいるという声も届いています。

また先生方もですね英語の授業だけでなく、道徳とか体育とか他教科でも支援していただくことで授業の幅が広がりまたさらに多面的なものの考え方ができるようになったというところもお聞かせいただいたところです。

【市長】 まあ、授業もさることながらやっぱりさっき言われたようにいろんな国の方と接するっていうのは非常に良いことだと思うんですよ。

そうする中で今、府中が多分外国の方は700人ぐらいおられて、そういった外国の方といろんな交流も今総務課の方で始めて、食博とかですねいろんなところで、この前まちなかマラソン参加してくれたりもしていたんで、だからまあちょっと半分思いつきみたいなどころはあるんですけど、CSのちょっと拡大版として多様な人たちとの交流っていうのは、そういうことも含めてね、ALTの方ってのはある程度指導経験もおありなんで、色々そういうのは持っておられると思うんですけど、地域にそういった外国の方も随分いらっしゃって、もちろんね上下もいらっしゃるんで、だからその方達と子どもたちの交流っていうのも考えていくのもあるのかなという風に思っています。

今いろんないわゆる技能実習生の方とかは、やっぱり地元と色々なことしたいということで、今回広報誌にも載せている町の清掃をしていただいたりですね、或いは町の地域の祭りにも参加されるところもあるので、ちょっとCSを似とるところがあるかなと思ってますんで、ALTもさることながら、そういったちょっとこう幅広にいろいろ多様な人たちの交流っていうのは考えいってもいいのかなと思ったんでまた、そういう機会が増えればいいなと思うところです。

和知さん、先ほどちょっとCSの高齢化の話をしていただいて、CSの件でも結構ですよ、他に何かございましたら。

【和知委員】 そうですね、やっぱり上下は、子どもが本当にさっきデータにあったようになんか南小学校ではもう複式学級になっていますよね。それで、保護者の方から、北小と南小を一緒に合併みたいな形にできないのかっていう要望なんかも町内会通してそういう話も聞いているんですけど、今後ね、どういう形にしていったらいいのかって言うのも全体的に考えないといけない。

上下だけじゃなく府中市の市内の学校なんかもだんだん減ってきている。本来は、増やす取り組み、もちろんこれから府中市の教育がいいからこっちに府中市に住んで、府中市の教育を受けたいっていう人たちを増やす取り組みもしないといけないし、でもたちまちやっぱり少人数になったところは親としては、同学年の子どもともっと競争させたいと思ったときに、一緒にできないのかということも考えられているので、そういう市としてはどのように考えられているかっていうのをちょっとお聞きしたいです。

【市長】 その辺は教育長に。

【教育長】 今回12月議会でも答弁させていただいたんですけども、もちろん人数というのは一つの要素としてはあると思うんですけど、人数で学校の形を決めていくっていうのは、もちろん望ましいとは思わないですし、教育委員会としてもそこは計画としてはないです。

ただ、今、上下町の学校また保護者の方からの想いっていうのは、子どもたちにもっと競争

できる環境をっていうそういう思いが、一緒になればそういう風になるんじゃないかっていう思いを持たれているということです。一方で、今の上下北上下南の学校のあり方が、ある意味不自然な状態かといえば私はそうではないと思っています、それぞれの学校でも一生懸命取り組んでいますし、学力はもちろんすべてじゃないですけど、非常に高い状況も生まれているというのはきっと一人ひとりにかけられる時間が多いからこそだという反面もあるかなと思います。

人数で議論をするというよりも先ほどおっしゃったように、将来的な見通しを持った時にどういう学校どういう組織どういう集団が上下地区にとって大事なのかという命題があるのかなと思っています。

保護者の方からは、学校一緒にして新しい校舎を建てて欲しいという、どっちかという形を求められている部分があるんですけどしっかり中身を詰めていくということが重要だと思いますのでそこは年度内の中で、議論する場をしっかりと設けて方向性は出していきたいなと思っています。その中でも、保護者の思いはもちろんですけどしっかり子どもたちの思いも聞いてみたいなという風に思っています。

【市長】 よろしいでしょうか。

C Sの話が出ていますのでせっかくですのでC Sについてみなさんのご意見をお伺いしたいんですけど、明郷学園のような先ほどちょっとご紹介いただいた模擬会社を作ったり、視察も多いところあればですね、他の学区では色々苦労されているところもあるんじゃないかと思うんですけど、じゃあ森山委員に、せっくなので府中学園の今、C Sは関わってってんかな。

【森山委員】 実はC Sにはまだ1回も関わったことはなくて、府中学園でどういう風な活動をしているかっていうのも実は知らないんですけども明郷学園とかに、たまに行ったりするときやっぱりあそこ特徴的で、そういうふうに会社みたいに作って経営とか運営っていうのをどうするのかとかを考えていくっていうのはすごく、面白いと思いますし、やっぱりC Sだからこそできるというか、地域民間の力を使わないとできない教育の部分であると思うので、これからそこは、やっぱり力を入れていく部分かなと思う一方で、先ほど和知さんが言われたようにやっぱりC Sに関わる方の高齢化っていうのもすごくあって、C S今言ってみればC S第一世代の方々っていうのが結構いらっしゃる中でその次の世代のC Sを担っていく方っていうのをどういうふうに育てていくとか、若い人が僕らみたいな若い親世代がそこへもう少し関わっていくような仕組みづくりをしていかなきゃいけないのかなという風には思います。

【市長】 C Sについて高橋さん。

【高橋委員】 そうですね。やっぱりね、学校のそれぞれのC Sちょっと拝見していますと、やっぱり、目的がはっきりしてるところはしっかりやっぱりリーダーさんを中心にC S活動を展開してらっしゃるんですけども、その目的がね少し不明瞭になったりぶれたりしてきてるところがちょっと、C Sの活動が弱くなりつつあるようにも見えるんですね。

例えばどういうことかと言いますとこれ、C Sに関わってらっしゃる方から聞いたんですけど、「学校のわしら手伝いだけさせられようんじゃない」みたいな感じを受けてる人がおっつんですよ。これは目的がはっきり明確でないですよ。だからその辺をやっぱりきちんと少しずつそこ世代が変わりつつもあるんで、その辺もやっぱり、C Sはこういうためにあるんですよっていうのをね、やっぱこう伝えていただかないとさっき言った、第1世代の人は一生懸命

勉強してるんすよ、学校と一緒にあって、だからよくわかってらっしゃるんですけど、少しずつ年が経つにつれて、ちょっとぶれてきてるのかなというふうに思うんで、だからその辺をやっぱうまく目的をしっかりと伝えていただく、これがまず一番じゃないかなという風に思いますけどね。

だから前にも言ったんすけども、若い世代はCSのCの字も知らんとかいう、保護者も多いみたいなんで、その辺含めてですね今後CSのあり方、伝え方、この辺をちょっとしっかり明確にしていく必要があるかなという風に思いますね。

【和知委員】 はい。

やっぱり今CSはCS、学校は学校っていうふうに分離してるような状況だからそういうことが生まれるのかなって思うので、先ほど藤井委員さんも言われたように、学校の中にCSの方が一緒にできるような形みたいなのができいくと、その特徴ある人たちが、自分のその持っているものを子どもたちに教えるっていう、いろんな教室があって、子どもたちが選択できる、やりたいことを選択できて、みんな一緒に教育じゃなく自分がやりたいことができるような1つのコミュニティみたいなのができいくっていうのがちょっと理想なのかなって今感じたので。はい。

【市長】 藤井先生（委員）は、立ち上げの時に色々ご苦労されたんじゃないかと思うんですけど。

【藤井委員】 最初はもう本当に、みんなで何回も集まって、今自分たちの学校の子どもたちには、どういうそのいいところがあって、どういう課題があって、それをどういう姿にしていきたいかを、何回も何回も集まって話をしてスタートしたので、第1世代はみなさんが言われるようにやっぱそこから全部知っているから、でもそこから少しずつ委員さんも多少変わり、そして校長も変わるんですね。

もう何回も変わっていると思うんですけど、その中で維持発展させていくっていうのはなかなかやっぱりマンネリ化せずに発展させていくっていうことは本当難しいことだとは思いますが、すけれど。

でも、学校の数だけコミュニティスクールの形があると私は思うんですが、私は南小学校と栗生小学校でしたけど、規模も同じぐらい、町内会の数も、南が3つで栗生は町内会としては1つなんですけどその中で4つに分かれていてよく似てるんです。だけど、組織は全く違うんです。

栗生で作っておられるような組織が南では無理だなんて、私は思いましたし、というふうに言ったら、やっぱり栗生はやっぱりこの組織だったんだなと。微妙に違うんですよ。で、目指す姿も子どもたちの姿も違っているし、ただトータルとしてこの府中市自体が目指しているコミュニティスクールの、この目指す姿っていうのはあるから、みんなこっちを向いてはいるんですけどその学校学校で地域も子どもも違うし、皆さんの思いもやっぱり、大分違う。だからその学校に合う形をみんな模索して、どこにも同じことは多分ないですね。

だからそれなりに、どこの地域の皆さんもすごい誇りとアイデンティティを持って、自分たちの学校って思って関わってくださっていると。だけど高橋さんが言われるような問題点は確かに、残念ながら起こってきてはいるのかなと思うんですけど。1つには、逆のことを言うようなんですけど、学校は学校の主体性を明確に持ってないとコミュニティスクールがうまくいかな

い、学校の主体性がはっきりとやっぱり。もう1個はこのコミュニティスクールでやったことによって、子どももだから自分たちは、おかげで、こういうところが伸びたっていう成功体験とか、地域の皆さんも子どもが変わったねって自分たちが変わったことによって変わったね、みたいなこととか、保護者にしても、コミュニティスクールで取り組んだおかげで、子ども達が学校が良くなったっていうようなそういう成功体験が返ってくるっていうことによって、何かこうトーンダウンしないで、頑張っていけるという風なのと両方あるんじゃないかなと。コミュニティスクールとしての存在意義みたいなのを考えて、また次の課題に向かっていけるんじゃないかなと思うんですけど。そんな感じです。

【市長】 はい。

【教育長】 補足させていただくと、最初にコミュニティスクールのお話をさせていただいたんですけど、いわゆるコミュニティスクールの形っていうのは、学校運営にしっかりと意見と一緒に学校経営するっていう役割です。それは、それも10校すべてしっかりできていると思っています。明郷学園の取り組みってすごく華やかに見えたりもするんですけど、それは学校経営のその先にあるアクションとして、いろんな方が関わる裾野が広がっている部分なのかなと思いますけれども、その部分をみて裾野を広げていくっていうことは、これからもしていかなきゃいけないんですけど、地道に華やかじゃないけれども、地道な活動を続けている学校もあります。

なので、そのいい部分の発信っていうこともやっていかないといけないですし、土台をしっかり作っていく、またそのアクションをしっかりしていくっていうのは、府中市ではそれを学びを豊かにするっていうことが、そのアクションだと思っているのでコミュニティスクールにそういう機能を持たせた活動をこれまで展開してきているので、そこは引き続き、それぞれの学校の状況や地域の状況もあると思うんですけど、それぞれのいいところを出していけるようなそういう取り組みしていきたいと思ったり、また、真似できるところはどんどん真似していこうということで、近年ではすべてのコミュニティスクールの協議会なんかもフォーラムを開いたりとかして、割とこれまで他でやってるからうちではこれやらないでおこうみたいな空気になりがちなんですけど、いいところはもっと真似していこうと、同じことをしていても、それは結果的には子どもの成長であったりとかその先に続く地域の活性化に繋がるということであればそれでいいんじゃないかということもありますし、今さらに広がってそれぞれの学校が広域的に、何か同じ取り組みできないかっていうようなそういう動きに繋がってきているという状況です。以上です。

【市長】 ありがとうございます。

いろいろご意見いただきましたが教育委員会の方でも活かしていただければと思います。

じゃ、ちょっと時間があるので、次に移らせていただきます。

府中市の教育大変素晴らしいところも、今のCSも含めてですね、あるとは思ってんですが、広く知ってもらうためにやはり、教育の魅力発信が必要であろうという風に思いますが、そののところに何かございましたらご意見いただきたいのですが。

【高橋委員】 はい。

他市町にはできてない先進的な教育をちょっとこう府中市を離れていった人からすごい言われるんですね。

前、別のところでもちょっとお話をさせてもらったんですけど、やはり子どもさんにとって児童生徒さんにとって、手厚い教育をしていただいているんです。とういのはさっきのCSにも繋がってくるし、学校のその管理者と現場の教職員さんで一体化的なものが非常に教育の基本になってるんです。なかなかこれは他市町では難しいそうなんです。

それがどういうところに現れるかという、やっぱ児童生徒さんにとって寄り添う姿、いわゆる1人の児童生徒さんたちに寄り添う姿はなかなか他市町ではできてないんだそうです。

こうした教育もそのCSも含めてなんですけれども、しっかりPRして、やっぱ府中の教育はこういう取り組みやっていますよという特徴がありますよ、こういう楽しくやっていますよじゃないですけど、やっぱそういったところですね、やっぱり候補をしっかりとやっていく必要があるんじゃないかなと思います。

だから、各学校もですね、学校推進だよりみたいな発信されて、これを保護者の方に渡すだけではなくて、地域の中の子どもさんが通ってない別の事業所の受付とかに置かせてもらうとかですね、いろんなこうするとその学校には行ってないけど、別の学校に行かしてる保護者の方も目にすると、府中市すごいね府中市の教育ってすごいねっていう、1つの関心を持っていたきっかけにもなりますし、もう1つお願いしたいのは市の広報、これはもう年に1回府中市教育の特徴なり、いろいろこう特集を組んでいただきたいな。しっかりとPRやったりしていただいた方が、いろんな多くの人の目にとまりやすいですから、非常にやったりね、そうして府中市のせっかくの教育、楽しい教育ですから、もっともっと多くの市外県外の人に知っていただいて、そしたら府中学園ができたときも府中学園に通わせたいがために、よその市町から移住して来られた方もいらっしゃるわけなので、そうした現象が少し時間があるかもわかりませんが、少しずつかもわかりませんがやったりこう発生していくような状況づくり、いわゆる私の中では教育移住というんですけど、こういったところですね発信をまずしていかないと、SNSとかを通じて発信していくとですね、少しずつ輪が広がっていくような可能性が広がっていくと思うんで、そういったところをちょっと一緒になって作らしていただければいいのかなと思うんでよろしくをお願いします。

【市長】 はい。ありがとうございます。

教育委員会は控えめなんでなかなか外にアピールするというのは、あんまり得意でないのかなという風に思うんですけど、一方で、専門的に例えば文部科学省とかそういう教育機関関係には府中市の教育がかなり評価をいただいているっていうのはあるんで、そういうところから評価をいただいているのもまた市民の方にも今、高橋委員が言われたように紹介できる場っていうのは、あれば、あった方が市民の人ね、そういう専門的なところからこんな評価を行ってっていうのは改めて知る機会もできるんじゃないかと思うんで、その辺りもまたしっかり今日、広報担当の部長も来ておりますので。

学級だよりは基本的には地域の町内会にはほとんど配布をされているんですかね。鵜飼なんかは府中学園のが回って来てはいるので、多分それぞれ学校でもどちらかという、新年度になったらという時はあるのかなと思いますけど、それももっとアピールしてもいい部分っていうのはあるかなと思いますながら、結構新年度の挨拶が多かったり体育祭があったらそういった紹介が多いので、ちょっと内容的に少しそこへ加えていってもいいのかなと思いますね。

【高橋委員】 市内の方だけでなく市外から府中市に通勤で通ってきてくださっているから、や

っぱりしっかりとね、府中市の教育の特徴を伝えて欲しいなという思いがありますので。

【市長】魅力発信っていう点でなにか、ございますでしょうか。

【和知委員】今回、なんか上下中学校がクラウドファンディングで頑張ったっていうのがしっかり宣伝してまだ、他のことでも他の学校でも子どもたちが挑戦したら何かやっぱり起こるっていうことを何か経験して欲しいと思うので、そういうのはもうしっかりと。町内にいても知らない人も結構いたので、後から知ったよとかいう話もあったので、これを継続してやっていくことによって、みんなやっぱり応援してやりたいって思う大人たちが増えてくるし、いろんなところから取材も来るでしょうから。

【市長】テレビでも時間割いて取り上げてくれていましたよね。

【和知委員】やっぱり市もすごいよっていうのをしっかり言ってやってください。よろしくお願いします。

【市長】続きましてちょっと冒頭、大川部長の説明もあつたんですねGIGAスクール構想を掲げてタブレットをいち早く配布をしたりしたんですが、学校の基盤の情報活用能力の育成について、何かご意見ご質問ございましたらお伺いをしたいんですが。

【森山委員】はい。

【市長】はい。森山委員お願いします。

【森山委員】やっぱ府中市は、いち早くGIGAスクール構想で全生徒にICT機器を配布するというのをやってきて、今もう割とそんなにたつて成熟してきたころだなというふうに思うんですけど、やっぱりこれからはツールをどう使うか、から得られる情報等をどう活用するかっていうサイバーリテラシー教育の方にも踏み込んでいかなきゃいけないのかなあという風に思います。

先程ちょっと話題になった、アメリカの大統領選挙とか兵庫県の県知事選挙であっても、いわゆるインターネット上でいろんな情報が拡散されて、その中でその情報が正しいか正しくないのかという、その取捨選択っていうのは自分でやっていくやっぱ力を身につけていかなきゃいけない部分もあるので、そういった部分も教育の中に取り入れていかなきゃいけないのかなという風に思います。

あともう1つ、これからは多分子どもの方が、いわゆるツールを使いこなすっていう風な部分に関しては習熟度がどんどん高くなっていくと思うんです。そうなったときに僕ら親世代も含め、また学校、教育委員会、市全体として、やっぱりその部分にきちんとついていかなきゃいけないと思うんです。

ちょっと教育から離れる話なんですけれども、例えば府中市で今年度から電子契約が使えるようになりました。これ昨年度末に電子契約の説明会が事業者に対してあって、僕も参加して、これで電子契約できるんだと思って今年度の契約っていう時に、部署によってはごめんなさいうちはまだできないですとか、ちょっともうまだ勘弁してくださいみたいな平気で言われるんです。これ、僕も民間企業で経営していますけれども、1企業で考えると結構最悪のスタートだと思うんですよ。あるところでは使えあるところでは使えないっていうのは、あんまりよくない状況だなという風に思って、やっぱりそういうふうな部分で、やっぱ全庁的にそういう風な部分を一気にこうやっていくっていうのをやっていかないと、教育委員会、学校っていう部分でも、大人たちがきちんと使える環境を作っていかないと、子どもたちが、何ていうん

でしょう、先生たちは使えないからもう僕らでやっぺいこうになってしまってもいけないし、そのあたりはやっぱりきっちりと、子どももちろんそうですけれども、教職員、また全庁的にもそういうふうなことは取り組みをしていくべきかなという風に思いました。

【市長】 はい。ありがとうございました。

市役所の方もしっかりそういった部分は取り組んでいけたらと思います。

今週からですね、町内会長さんといろいろ意見交換をさしてもらって、昨日は第1回だったんですけど、そのときも、町会さんがやはり同じような話をされていて、学校に見に行ったときに、子どもたちがもうそれぞれタブレットを使うっていうグループの意見を全部自分で打ち込んで、もうあと時間5分ですという時に一斉配信すると何かすべてのグループの意見が一斉に上がって見えたんです。だから、もう本当に子どもたちの技術がすごいなという話が言われたんで、またそういったのも含めて取り組んでいきたいと思います。

情報活用についてなにか他にございますでしょうか。

最後に他に分野にとらわれず、何か思っておられること、ご意見等ございましたらお伺いしたいと思います。

よろしいですか。

じゃあ、本日いろんなご意見をいただきましたので参考にさせていただきます、今後、教育行政を推進して参りたいという風に思っております。

それでは最後になりましたが、ここまでの内容につきまして、教育長の方からまとめをお願いしたいと思います。

【教育長】 はい。今日、冒頭市長の方から、少子化と財政健全化の2本柱で最初お話いただきました。

今日、議論していただく中でですね、やっぱりまずその少子化については教育の質であったりとか、学校運営にやっぱり影響もありますし、社会の変化に伴う教育ニーズの変化に確実に影響はある現状があります。

その中で今日いくつかお話の中で、共通キーワードとしては、やっぱり教師の役割の重要性だとか、教師の役割の変化みたいなものもやっぱり出てくるのかなという風に思いました。

昔はですね、今と変わらない部分もあるんですけども、しっかりと知識を教えて、そこを生かしていくっていうそういう人材が求められてた時代は、そういう教育がむしろ求められていたんですけども、今、一人一人少子化になっている中で、一人一人の教育ニーズに対応していくっていうことがこれから求められていく中で、やはりその一人一人が子どもたちの学びをサポートすることであったりとか、あと精神的、社会的な支援も行う役割も、教師の役割として、増えてきたんであろうという風に思っております。

教師自身のスキルアップとか、専門的な指導の向上であったりとか、質を高めるような継続的な研修が必要なのかなというふうに改めて思いました。

そのためにも、やっぱりやる気のあるモチベーションを高めていくってこともそうですしそういう人材をしっかりと確保して、育てていく。それも我々行政の役割の1つかなと感じたところです。

もう1つは、財政健全化っていうことで、やはり限られた資源の中でどういう市の運用をしていくのかということ。優先順位をつけた投資ということで、今日議論がありましたけれ

ども、私自身も人づくりやまちづくりになる、つまりまちづくりの根幹になる子どもにとっては市民生活そのものであるかなと感じたところです。

以前ですね、ある方とちょっと議論したときに、「教育が後退すると町は死にます」というちょっときつい言葉を言われたんですけども、私はちょっと返す言葉はなかったんですね。それぐらいの役割があるという、覚悟をもってこの業務に当たらなければならないと改めて感じたところです。

そういう意味では、先ほど申し上げたように先生、教師を大事にしていくってということいくつかお話がいくつか出てきたと思いますし、先生を大事にすることはもう子どもたちを大事にするということ、子どもたちを大事にするってことは、これからのまちづくりに必ず生きてくる、そういうための教育投資なんだなという風に思ったところです。

今後ですね、少子化とまた財政健全化進む中でですね、よりよい教育の形ってのをしっかりと市民に対してもアピールできるように、市長と共に取り組んでいきたいと思いますので、皆様のご支援ご協力をよろしく願いいたします。以上でございます。

【市長】 予定していた時間となりました。

本日皆様からいただきました意見を参考にして今後の府中の教育の推進を図って参りたいというふうに思っております。引き続き皆様には、ご助言ご支援を賜りますようお願い申し上げます。まして、府中市総合教育会議を終了させていただきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。